

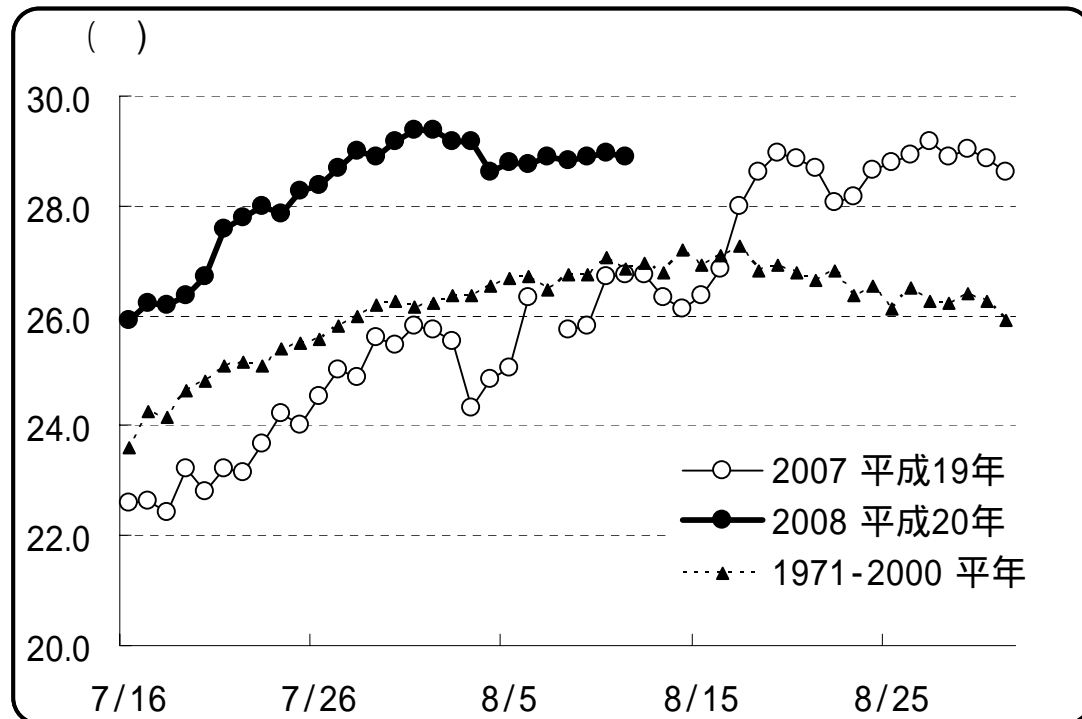
漁海況情報

平成20年8月11日 第16号(通巻375号)

山口県水産研究センター 外海研究部 〒759-4106 長門市仙崎2861-3

TEL: 0837-26-0711 FAX: 0837-26-1042 Mail: a16402@pref.yamaguchi.lg.jp

【萩 - 見島フェリー観測の表面水温】



萩NNW15マイル沖表面水温の推移(7月16日以降)

萩 - 見島フェリーの観測による萩沖の表面水温は、8月に入ってからも28℃以上で推移しています(上図)。8月11日の表面水温は28.91℃で、前年に比べ2.1

7℃高め、平年に比べると2.05℃高めです。

【豊関・大津長門地区の水温・魚群情報】

漁業調査船「第2くろしお」による、8月7~8日の水温・魚群調査結果をお知らせします。

調査ライン図は次のページに載せています。

表 各観測点の水深別水温(℃) 8月7日~8日

測点番号				
名称等	吉母地先	神田岬沖	川尻岬沖	深川湾口
深度・時刻	7日 13:30	8日 10:55	8日 12:00	8日 15:29
0m	29.2	28.3	28.7	29.2
20m	24.9	28.1	25.7	26.4
40m		21.5	24.3	22.6
60m				
80m				
海底	24.6	20.9	22.9	22.6
水深	22m	58m	45m	40m

魚群反応があった海域・いずれも位置は世界測地系です。

8月8日 11:17

緯度 34° 20.34 N 経度 130° 52.64 E

反応：濃い 水深：15m 反応深度：3~12m

8月8日 11:49

緯度 34° 26.28 N 経度 130° 56.24 E

反応：濃い 水深：47m 反応深度：5~25m

付近でサワラによるものと思われる「湧き」がありました。

8月8日 11:52

緯度 34° 26.68 N 経度 130° 56.79 E

反応：濃い 水深：46m 反応深度：20~35m

8月8日 14:13

緯度 34° 29.63 N 経度 131° 05.82 E

(オーシャンクロス型魚礁 No3)

反応：ふつう 水深：84m

反応深度：10m 付近と 75m

8月8日 15:34

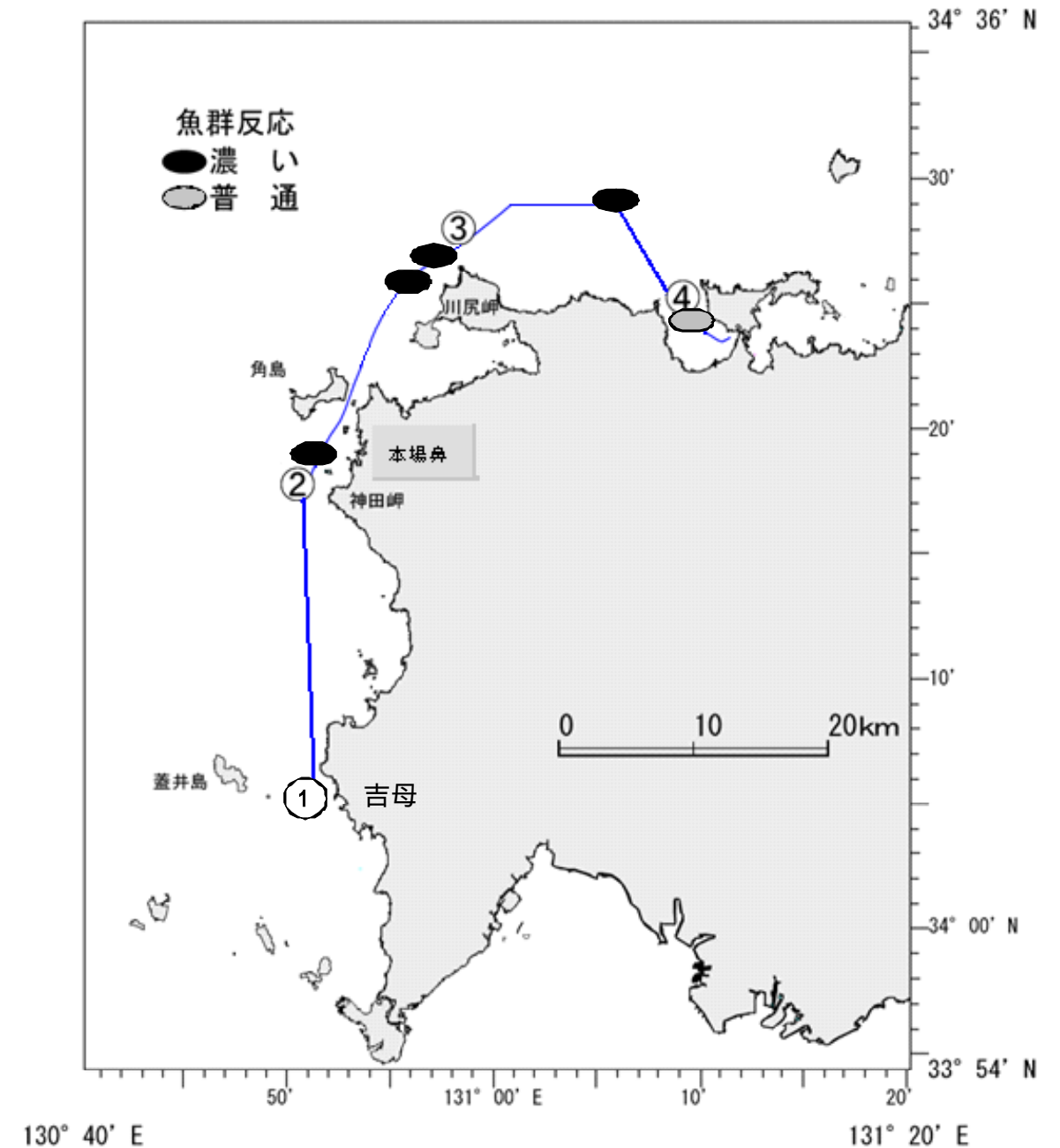
緯度 34° 25.14 N 経度 131° 08.60 E

反応：ふつう 水深 34m

反応深度：25m~海底付近

その他 沿岸各所でサワラによるものと思われる「湧き」が見られました。

調査海域



【今年のウルメイワシ漁況の見通し】

ウルメイワシ漁況について、現在当センターが入手している情報から今期の予測をしましたので参考にしてください。

漁獲量：前年・平年を下回る。(平年漁獲量：湊市場過去5ヶ年平均 1,025 トン)

主漁期：小・中羽(全長15cm以下)8月～9月、大羽(全長15cm以上)9月～10月。

魚体(銘柄)：小・中羽は、昨年を下回り、大羽主体の水揚げとなる。

予測の根拠

1. 漁獲量・資源量の長期変動傾向

1) 湊市場の漁獲量：浮敷網(棒受網、すくい網)による漁獲量の推移(図1)を見ると、1989年をピークに、以後全体的に減少傾向にある。銘柄は1989年までは小羽、1990年以降は大羽が主体となっている。

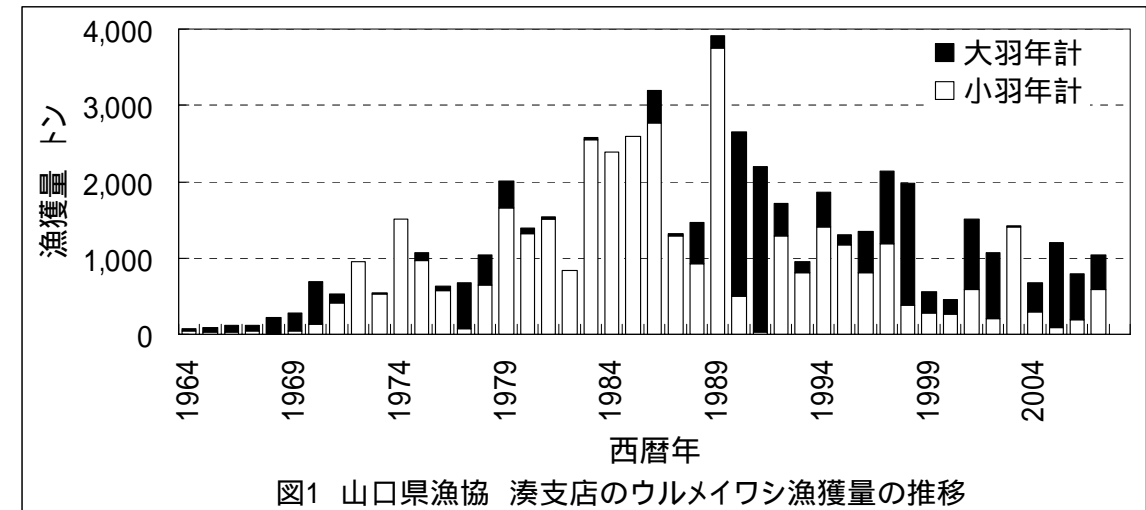


図1 山口県漁協 湊支店のウルメイワシ漁獲量の推移

2) 平成19年対馬暖流系ウルメイワシ資源評価：低位・増加傾向。本種は大羽が多い年は小・中羽が少ないという逆相関の関係がある。

3) 対馬暖流系ウルメイワシ長期予報(平成20年3月発表)：前年を下回り平年を上回る。九州・山口総漁獲量の経年変化を見ると、2002年以降は偶数年に漁獲量が多く、3000トン台、奇数年には少なく1500トン台で推移していたが、昨年2007年(4-9月)は4800トンと豊漁であった。

4) ウルメイワシとカタクチイワシの関係：両種は生態

的に競合関係にあり、東シナ海～日本海における両種の漁獲量は逆相関の関係がある。本海域でも1993年以降、ウルメイワシが低水準になるとカタクチイワシ春生まれ群が高水準になる傾向が見られた。湊市場におけるカタクチイワシは2007年秋生まれ、2008年春生まれとも豊漁であるため、今期のウルメイワシ漁獲量は少なくなる可能性がある。

2. 本年の発生量・漁獲量の動向

1) 卵稚仔と漁獲量の関係：漁獲量と産卵盛期の5 - 6月の産卵量の間には正の相関が認められる。今年の同期卵稚仔は昨年を下回っている。

2) 湊市場の浮敷網によるウルメイワシ漁獲動向（今年7月まで）：昨年はカタクチイワシカエリ・小・中羽中にウルメイワシ小羽が多数混獲されていたが、今年は7月末にわずかに見られたただけである。

3) 初漁期漁獲量と年間漁獲量：湊市場の初漁期（7 - 8

月）漁獲量と年間漁獲量の間を見ると、正の相関が見られる（図2）。今年7月末現在、漁獲量はない。したがって年間漁獲量も少ないと推測される。

4) 西部各県の4 - 6月の漁獲動向：長崎県北松南部海域における中・小型まき網の漁獲量は前年の1.5倍だが、銘柄のばらつきが顕著で、昨年のような小羽のまとまった漁が見られない。（長崎県総合水産試験場発行・漁海況週報）

